



校歌に、地域に愛着を！

校長 永井 有司

新緑の候、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育活動にご理解・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

今年は、冬は記録的に寒い日が多かったものの、3～4月に高温の日が多かったために、花の開花時期が例年よりも1～2週間早まってしまいました。季節ごとの花を見るのを楽しみの一つにしている私にとっては、例年ならゴールデンウィークに見頃を迎えるはずの花が盛りを過ぎてしまっており、寂しさを禁じえません。やはり



<本校の梨園に見事に咲いた梨の花>

季節に合った咲き方をしてもらいたい、と考えるのは私だけではないと思います。同じように、本校に通っている子どもたちにも、成長過程に合ったものを身に付けることが健全な成長には欠かせないものだと思います。その時期は二度と訪れません。個々に成長の進み具合は違いますが、その時々々にタイミングよく身に付けられるように、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちに関わっていかなければならないのだと、開花期をズレて満開を迎える花を見ながら改めて考えさせられました。

さて、今年度は、昨年度『講話朝会』時に行っていた生活目標についての話を『生活朝会』として独立させました。理由は3つありました。1つめは、子どもたちが2つの内容を一度に咀嚼し切れないためです。2つめは、生活朝会の時間が確保されていれば、担当教師だけでなく、子どもの活躍の場も得られるためです。3つめは、講話朝会后に、校歌を歌う場を設定するためです。

本校の卒業生でもある私の妻が、「覚えているよ」と自宅で校歌を口ずさんでいたことを思い出します。数十年経っても忘れず、心の中に息づいているのでしょう。学校では、4月こそ今月の歌に設定されている校歌ですが、それ以降は儀式や運動会等でしか歌う機会がないのではとても残念なことです。本校の校歌は2番までと短いために、逆に短時間

でも全校で歌うことが可能です。また、改めて歌詞を読み直してみますと、大宮別所小学校にふさわしい素晴らしい内容となっていることが分かります。5月の講話朝会では、子どもたちに校歌について話をする予定です。子どもたちが校歌に、そして地域に愛着をもち、愛唱歌のように校歌を歌うようになってほしい、また歌声の響く学校になってほしいと願っています。保護者・地域の皆様におきましても、子どもたちと一緒に歌えるようになっていただけると嬉しい限りです。

大宮別所小学校校歌
作詞 宮澤 章二
作曲 溝上日出夫

1. 朝の光は
いのちをそめて
のびる心の歌となる
明るく育ち
なかよく学び
大宮別所の春秋楽し
胸のしるしも
なしの花

2. いぶきあふれる
若葉の窓辺
鳥ものぞみをつけにくる
きたえて強く
あらしに負けず
大宮別所の未来の星を
ともにいだいて
すすもうよ